レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

2026年 4月 1日

株式会社　サンナマ
〒721-0953　福山市一文字町19番12号
TEL　084-954-1661
FAX　084-954-1724
配合計画者名

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月11日～6月10日,9月21日～12月10日,左記以外の期間については備考欄に記述 (標準配合)
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	27	12	20	BB

指定事項(必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載	
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB	
指定事項(任意)	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³	
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	最高・最低	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	55 %	
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³	
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³	
	呼び強度を保証する材齢	28 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm	
	空気量	4.5 %			

使用材料

セメント	生産者名	麻生セメント株式会社	密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq %	－	
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq % －
混和材②		－		－		－	

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分 区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	表乾	微粒分量の範囲%
細骨材	①	砕砂	笠岡市生江浜字柚ノ木	A	モルタルバー法	2.5mm以下	2.70	2.50	2.64	3.0±2.0
	②	石灰砕砂	大分県津久見市上青江	A	モルタルバー法	2.5mm以下	2.83	2.50	2.64	3.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石2010	笠岡市生江浜字柚ノ木	A	モルタルバー法	10mm～20mm	6.98	2.69	2.71	0.5±0.5
	②	砕石1005	笠岡市生江浜字柚ノ木	A	モルタルバー法	5mm～10mm	5.95	2.69	2.71	0.5±0.5
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	ｼｰｶﾎﾟｿﾞﾘｽ15L	種類	AE減水剤(標準形Ⅰ種)	Na_2Oeq %	0.5
混和剤②		－		－		－
混和剤③		－		－		－

細骨材の塩化物量	－ %	水の種類	上水道水・上澄水	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－ %		
回収骨材の使用方法	細骨材	－	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	－	

配合表 kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
330	－	－	175	580	249	－	484	483	－	－	2.31	－	－

水セメント比	53 %	水結合材比	－ %	細骨材率	46.8 %

備考	骨材の質量配合割合, 混和剤の使用量については, 断りなしに変更する場合がある。 修正標準配合として次に示す期間の間､混和剤の単位量のみ変更	骨材混合比 (質量混合)	細骨材①:② 70.0:30.0 粗骨材①:② 50.0:50.0

夏期6月11日～9月20日+20%、冬期12月11日～3月10日-20%

配合計算書

配合の設計条件					
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	27	12	20	ＢＢ
指定事項	W/C≦55% AIR=4.5% 材齢28日				

(1)変動係数(v)　　当工場の実績により　v ＝ 10　%

(2)配合強度(m)

$$m_1 = \frac{1 \cdot S_L}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 33.8 \ N/mm^2$$

よって　m ＝ 33.8　N/㎟

(3)水セメント比(W/C)　　m ＝ -15.6 ＋ 26.3 × C/W

W/C ＝ 26.3 ÷ (33.8 ＋ 15.6) × 100 ＝ 53 % ≦【55%(上限値)】

∴W/C ＝ 53　%

(4)単位水量(W)　　当工場の実績により　W ＝ 175　kg/m³

(5)単位セメント量(C)　　C ＝ W ÷ (W/C) × 100 ＝ 175 ÷ 53 × 100 ＝ 330　kg/m³

Cv＝ C ÷ 密度 ＝ 330 ÷ 3.04 ＝ 109　ℓ/m³

(6)空気量(A)　　A ＝ 4.5 % × 1000 ＝ 45　ℓ/m³

(7)単位粗骨材量(G)　当工場の実績により　かさ容積 ＝ 0.610 m³/m³　実積率 ＝ 58.5 %

Gv ＝ 0.610 × 1000 × 58.5 ÷ 100 ＝ 357　ℓ/m³

G ＝ Gv × 表乾密度 ＝ 357 × 2.71 ＝ 967　kg/m³

G1 ＝ G × 50.0 % ＝ 484　kg/m³

G2 ＝ G × 50.0 % ＝ 483　kg/m³

(8)単位細骨材量(S)　　Sv ＝ 1000 － (W＋Cv＋Gv＋A) ＝ 1000 － 686 ＝ 314　ℓ/m³

S ＝ Sv × 表乾密度 ＝ 314 × 2.64 ＝ 829　kg/m³

S1 ＝ S × 70.0 % ＝ 580　kg/m³

S2 ＝ S × 30.0 % ＝ 249　kg/m³

(9)細骨材率(s/a)　　s/a ＝ Sv ÷ (Gv＋Sv) × 100 ＝ 46.8　%

(10)単位混和剤量(Ad)　　Ad ＝ C × 添加率 ＝ 330 × 0.7000 % ＝ 2.31　kg/m³

配合表　kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
330	－	－	175	580	249	－	484	483	－	－	2.31	－	－

水セメント比	53 %	細骨材率	46.8 %	骨材混合比(質量混合)	細骨材①:②　70.0:30.0
					粗骨材①:②　50.0:50.0

備考